

●平成24年度一般選抜後期日程についての講評等

【後期試験の基本的な姿勢】

宮崎公立大学国際文化学科が行う「総合学力試験」として、以下の3点を念頭において作題した。

- 1 地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取りあげる。
- 2 内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力を問う。
- 3 自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

問1は、「UNESCO treaty」すなわち「ユネスコ条約」とは何かを説明している箇所を問うことで、問題文の流れを理解しているかを確認しようとする問題である。

下線部(1)を含む前後部分が該当文であり、other than 以下の digging up, exchange, donation, purchase などの単語の意味が分かれば容易である。また、問題文1にも関連する文があり、それも参考になる。

問2は、文の前後関係が正しく理解されているかを確認する問題である。

問題文の「その主張や意見・指摘」が指す事例を探せばよく、文中の First, In addition, Furthermore などヒントになるので、容易に解答できるであろう。

問3は、an issue in East Asia が何を指すのか、文脈から正しく読み取ることができるかを問う問題である。

下線部直後が該当文であり、下線部中の including Japan, Korea and China に目をつけて、大戦中に日本が行った行為について説明している箇所を探せばよい。

問4は、本文の内容を正確に理解しているかを問う問題である。

日本と韓国との間で、1965年に実際に行われた取り組みについて具体的に示している文を探せばよい。

問5は、本文で筆者が最も主張したい部分を問うことで、全体をどれだけ正確に理解しているかを確認する問題である。

that が何を指すのかに注意ながら、下線部の前後の文を説明すればよい。

以上、問1～問5は、本文を正確に理解してそのポイントを押さえながら読み解くことが試されている。下線部や問題文中にヒントがあり、また問題文1も同じような内容であるため、英文解読を行う上で重要なヒントになるだろう。

英文のなかから情報を正確に読み取るためには、①key word に気をつけながら英文に目を通す、②英文を速く読む力(語彙の知識、構文に関する知識)をつける、③普段から簡単な英文を多読する、の3点が大きなポイントになる。

## 問6 小論文

1. 問題文1と問題文2を参考に、「流出文化財」返還をめぐる問題をふまえて、これから日本が築くべき望ましい関係について、800字以内で自分の考えを論述する課題である。「流出文化財」について、過去どのような経緯で文化財が流出したのか、返還を拒む国の根拠は何か、日本は過去を顧みて国際関係をどのように構築すればよいのかなど、国際的で幅広い視点から論述されているかをみた。
2. 「返還」問題を、「流出文化財」ではなく「北方領土」「竹島問題」「尖閣諸島」などに置き換えて論じたものが少なからずあった。何が問われているのかを正確に理解することが求められる。また、「流出文化財」の返還に賛成か反対のみの議論や、「国々の信頼関係が大切」「相手を理解することが大切」といった漠然とした一般論に終始したものも多かった。
3. 文章の内容によって段落を設ける、文の書き出しはひとマス開ける、などの小論文の基本的なルールを無視したものや、強張（調）・埋装（葬）品といった誤字・脱字、漢字で書くべきところをひらがなで書いたものも少なくなかった。
4. 小論文では、問題文の内容を正確に理解して、自分の考えを明確かつ体系的に論述することが求められる。自らの体験や知識をただ論述しただけのものが多く、しかも取りあげた事例も独善的で適切でないものもあった。具体的な事例を挙げることは、内容をより明確にする効果があるが、事例が不適切であれば「論の飛躍」「脱線」などと評価されてしまう。全体のバランスを考え、説得的な事例を取りあげるようにしたい。